

関係各位

令和2年10月15日
一般財団法人 沖縄美ら島財団

奥武島で「サバニ」建造中！（第2報） 木材を船の形へ。「矯め」工程開始！！

一般財団法人沖縄美ら島財団（沖縄県本部町）では、令和2年9月28日（月）より、サバニ造船技術者として県内最高齢となる嶺井藤一氏（90歳）監督のもと、同氏の孫である嶺井尚人氏（44歳）によるサバニ建造の様子を記録調査しています。

10月15日（木）現在、船体の側面となる舷側材（げんそくざい）をひねりながら曲げ、船の形に矯正する「矯め（ため）」の作業が行われています。手に伝わる感触や木が立てる微かな音を頼りに、木材を損なわないようにゆっくりと曲げていく「矯め」は、サバニ建造の作業全体を通して最もデリケートな工程です。

また、「矯め」の作業と並行して、船底の加工も行われます。

【サバニ建造 概要】

作業時間：平日10：00～17：00

※ご取材の際は、事前にご連絡いただけますようお願い致します。

製作者：サバニ造船技術者 嶺井藤一氏、嶺井尚人氏

場所：奥武島造船所（南城市玉城奥武）

※別添 地図参照ください。

協力：南城市教育委員会、奥武区公民館

【「矯め」の作業について】

2枚の舷側材の間にチェーンを渡し、ターンバックル（万力）で締めこんで木材同士を引き寄せ、徐々に曲げていきます。

節の数や位置、木目の状態などが1枚ずつ異なる木材を、何日もかけて左右対称に曲げていくのは、造船技術者の腕の見せ所です。



嶺井藤一（みねい ふじいち）氏

昭和5年生まれ。南城市奥武島出身。玉城尋常高等小学校卒業後、家業の漁業に従事。

並行して漁業用サバニの建造技術を習得、昭和30年頃に独立。以後、ハーリー用のサバニも含め、約200隻のサバニを建造。平成29年度「優秀技能者」として沖縄県知事より表彰。

嶺井尚人（みねい なおと）氏

昭和51年生まれ。南城市奥武島出身。県立南部商業高校卒業後、家業の漁業に従事。

20年ほど前から祖父である藤一氏の手伝いを通して、ハーリー用のサバニの建造技術を学ぶ。伝統的な漁業用サバニを建造するのは、今回が初めてとなる。

※海洋博公園 海洋文化館（沖縄県本部町）では、糸満や伊江島、平安座島のサバニが展示中です。地域ごとに特徴が異なるサバニをぜひ比較してご観賞ください。

※ご取材の際は、マスク着用など新型コロナウイルス感染症拡大防止対策にご協力ください。

＜お問い合わせ＞ 一般財団法人 沖縄美ら島財団 企画広報課 仲宗根・宮内
TEL：0980-48-3649 / FAX：0980-48-3122
Mail：oki-pr@okichura.jp

<奥武島造船所>



※お車でお越しの方は、いまいゆ市場・運動広場の駐車場をご利用ください。

※路上および漁港・作業場への駐車はご遠慮ください。